

地球温暖化の影響について

地球温暖化が進行すると、夏の猛暑や強い雨が更に激しくなり、暑さによる健康被害、大雨による土砂災害や水害、高温による農作物の被害などの影響があると考えられています。
「出典：気候変動適応情報プラットフォーム」



気候変動(地球温暖化)に対しては、緩和策(温室効果ガスの排出削減など)はもちろんのこと、被害の回避・軽減を図る適応策に取り組むことが重要とされています。(参考：気候変動適応計画(令和3年10月22日閣議決定))

地球温暖化の影響や適応については、気候変動適応情報プラットフォーム(国立環境研究所)をご参照ください。



気候変動適応情報プラットフォーム
(国立環境研究所)

(参考) 予測シナリオについて

本リーフレットでは、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第5次評価報告書(AR5)で用いられたRCP2.6シナリオとRCP8.5シナリオに基づき将来予測を行っています。

RCP2.6シナリオでは、21世紀末(2081-2100年)の世界平均気温が、工業化以前※と比べて約2°C(0.9~2.3°C)上昇する可能性が高いことから、本リーフレットでは「**2°C上昇シナリオ**」と表記しています。これは、**パリ協定の2°C目標が達成された世界**であり得る気候の状態に相当します。RCP2.6はIPCC第6次評価報告書(AR6)のSSP1-2.6に近いシナリオです。

RCP8.5シナリオでは、21世紀末(同上)の世界平均気温が、工業化以前と比べて約4°C(3.2~5.4°C)上昇する可能性が高いことから、本リーフレットでは「**4°C上昇シナリオ**」と表記しています。これは、**追加的な緩和策を取らなかった世界**であり得る気候の状態に相当します。RCP8.5はIPCC AR6のSSP5-8.5に近いシナリオです。

※1750年より以前の期間を示しますが、世界的な観測が行われるようになった1850-1900年の観測値で代替しています

全国の情報はこちら

「日本の気候変動2020」
(文部科学省・気象庁、令和2年12月公表)



神奈川県の情報はこちら

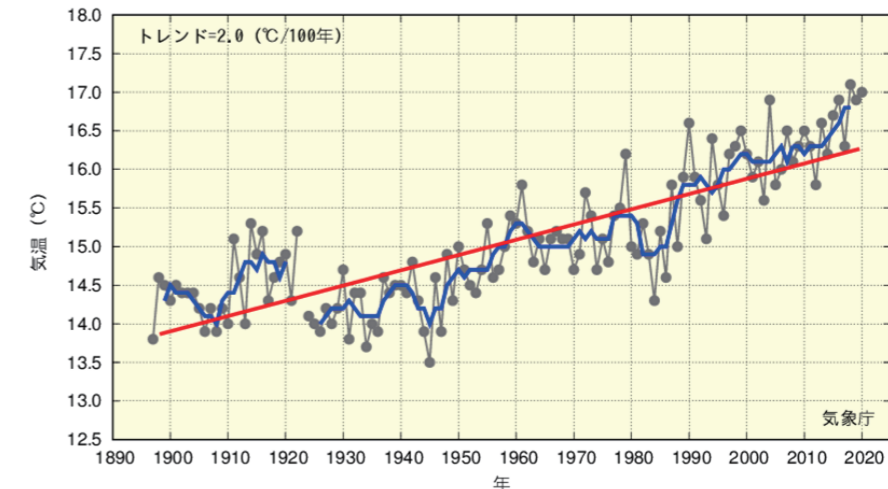
気候変化レポート 神奈川県気候変動
-関東甲信・北陸・東海地方-
-このリーフレット-



神奈川県の気候変動

「日本の気候変動2020」(文部科学省・気象庁)
に基づく地域の観測・予測情報リーフレット

横浜市のこれまでの気温の変化



横浜市の気温は100年あたり約2.0°C上昇しています。
神奈川県の将来の気候はどのようになるのでしょうか。

このリーフレットでは、20世紀末と比較した21世紀末の将来予測を、以下2つのシナリオについて示しています(詳細は裏表紙をご覧ください)。

2°C上昇シナリオ(RCP2.6)

21世紀末の世界平均気温が工業化以前と比べて約2°C上昇。
パリ協定の2°C目標が達成された世界。

4°C上昇シナリオ(RCP8.5)

21世紀末の世界平均気温が工業化以前と比べて約4°C上昇。
追加的な緩和策を取らなかった世界。



横浜地方気象台
東京管区気象台

神奈川県横浜市中区山手町99 TEL: (045)621-1999
東京都清瀬市中清戸3-235 TEL: (042)497-7219

このリーフレットは印刷用の紙にリサイクルできます

令和4年3月
横浜地方気象台・東京管区気象台

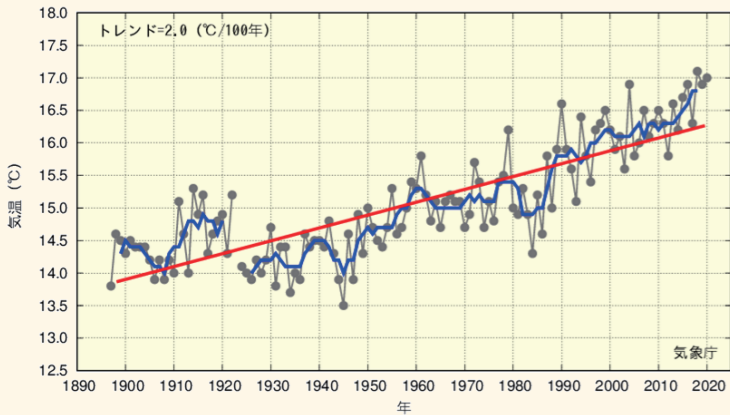
年平均気温の変化

➤ 21世紀末には年平均気温が約1.3℃/約4.2℃上昇 (2℃/4℃上昇シナリオ)

これまで

横浜(横浜市)では年平均気温が100年あたり**約2.0℃**上がっています。

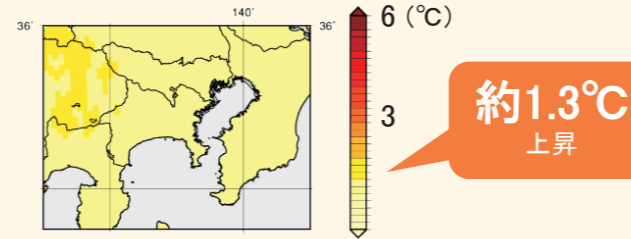
横浜(横浜市)の年平均気温



これから

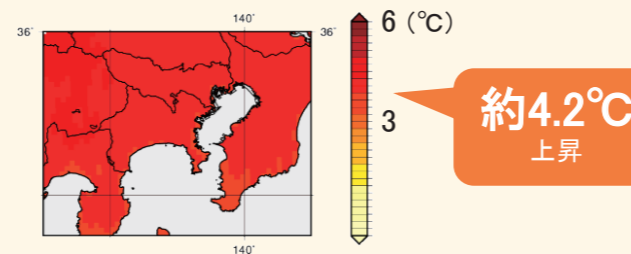
神奈川県を平均した変化量を示す

2℃上昇シナリオ



約1.3℃
上昇

4℃上昇シナリオ



約4.2℃
上昇

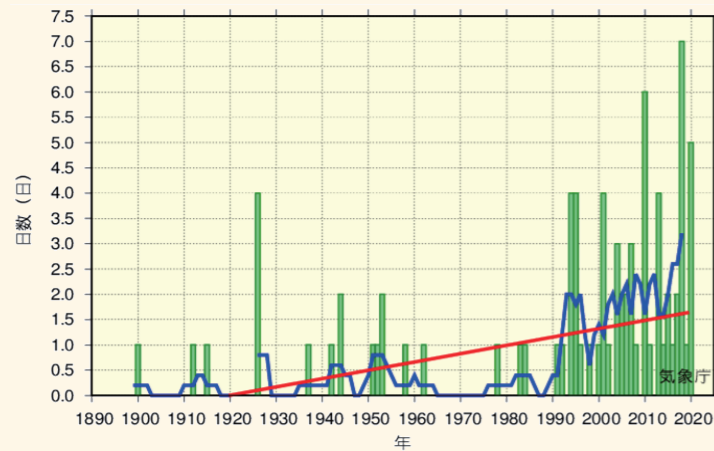
猛暑日や熱帯夜などの変化

➤ 21世紀末には猛暑日が約3日/約27日増加 (2℃/4℃上昇シナリオ)

これまで

横浜(横浜市)では猛暑日の年間日数が10年あたり**約0.2日**増えています。

横浜(横浜市)の年間猛暑日日数



これから

神奈川県を平均した変化量を示す

2℃上昇シナリオ

猛暑日	3日程度増加	↑
真夏日	20日程度増加	↑
熱帯夜	18日程度増加	↑
冬日	9日程度減少	↓

4℃上昇シナリオ

猛暑日	27日程度増加	↑
真夏日	64日程度増加	↑
熱帯夜	67日程度増加	↑
冬日	18日程度減少	↓

猛暑日: 日最高気温35℃以上 真夏日: 日最高気温30℃以上 熱帯夜: ここでは日最低気温25℃以上 冬日: 日最低気温0℃未満

→ 産業や生態系など広い分野への大きな影響と健康被害の増大

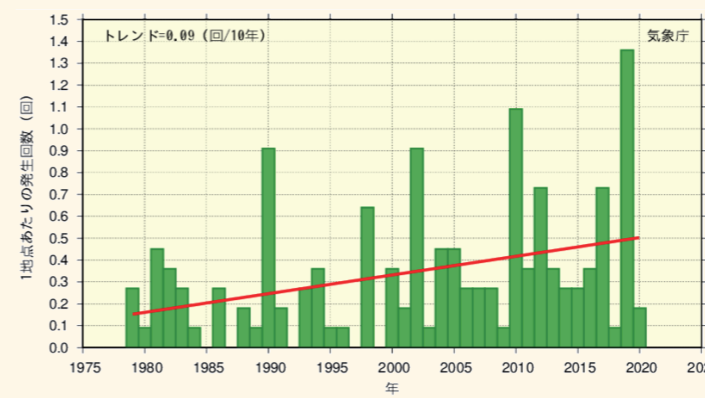
雨の変化

➤ 21世紀末には滝のように降る雨*の発生が約1.5倍/約2.2倍に (2℃/4℃上昇シナリオ)

これまで

神奈川県では1時間降水量50mm以上の発生回数が**増えているとみられます**。

神奈川県の1時間降水量50mm以上の発生回数変化



これから

神奈川県を平均した変化量を示す

2℃上昇シナリオ

神奈川県では1時間降水量50mm以上の雨は**約1.5倍**に増加。

4℃上昇シナリオ

神奈川県では1時間降水量50mm以上の雨は**約2.2倍**に増加。

地域単位での予測は不確実性が高いことに注意

*滝のように降る雨: 1時間降水量50mm以上

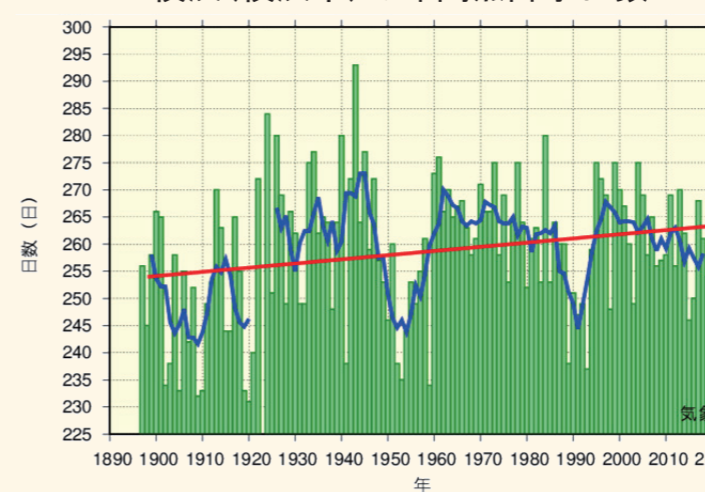
雨の降らない日の変化

➤ 21世紀末には雨の降らない日*が約5日/約10日増加 (2℃/4℃上昇シナリオ)

これまで

横浜(横浜市)では雨の降らない日が100年あたり**約8日**増えています。

横浜(横浜市)の年間無降水日数



これから

神奈川県を平均した変化量を示す

2℃上昇シナリオ

神奈川県では雨の降らない日は年間**約5日**増えます。

4℃上昇シナリオ

神奈川県では雨の降らない日は年間**約10日**増えます。



*雨の降らない日: 日降水量1.0mm未満の日

→ 大雨による災害発生や水不足などのリスクが増大

気候変動による一般的な影響を記載したものであり、神奈川県について評価したものではありません。気候変動の影響については環境省『気候変動影響評価報告書』等をご覧ください。